


I C T 学習教材コンテンツ活用実践事例

		学校名	県立八戸聾	学校
授業について	教科領域名 (✓又は■で記入する。)	<input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input checked="" type="checkbox"/> 算数・数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 外国語・外国語活動 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作・美術 <input type="checkbox"/> 体育・保健体育 <input type="checkbox"/> 技術・家庭 / 職業・家庭 / 職業 / 家庭 <input type="checkbox"/> 特別の教科 道徳 <input type="checkbox"/> 総合的な学習（探究）の時間 <input type="checkbox"/> 日常生活の指導 <input type="checkbox"/> 生活単元学習 <input type="checkbox"/> 作業学習 <input type="checkbox"/> 遊びの指導 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> その他（ ）		
	単元(題材)名	「合同な図形」		
	単元(題材)の目標	多角形や三角形の内角の和について調べる。		
学習集団と実態	学部・学年・人数	小学	部	5 年 2 人
	本単元(題材)における学習集団の主な実態	本学級児童2名は、小学校の学習に準ずる教育課程で当該学年の内容を学習している。いずれも補聴器を装用の上、集団補聴システム（ロジャー）を活用し、A児は主に手話や指文字で、B児は主に音声でコミュニケーションを行っている。学習を一緒に行うことで、友達の発想に刺激を受けたり自身の考えを振り返ったりするなど、互いの良さを認め合ったり、足りない部分を補い合ったりすることができ、良い影響が見られている。		
I C T 活用について	使用した支援機器・教材の名称	・タブレット ・Apple TV		
	使用したアプリケーションの名称	Google classroom		
	主な活用の用途 (✓又は■で記入する。)	(複数選択可能) <input type="checkbox"/> コミュニケーション支援 ( <input type="checkbox"/> 意思伝達支援 <input type="checkbox"/> 遠隔コミュニケーション支援 ) <input checked="" type="checkbox"/> 活動支援 ( <input type="checkbox"/> 情報入手支援 <input checked="" type="checkbox"/> 機器操作支援 <input type="checkbox"/> 時間支援 ) <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 ( <input checked="" type="checkbox"/> 教科学習支援 <input type="checkbox"/> 認知発達支援 <input type="checkbox"/> 社会生活支援 ) <input type="checkbox"/> 実態把握支援		
	I C T 活用のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機器の操作の理解。必要な機能を選んで使用できる。</li> <li>・自分や友達の解答に至るまでの思考過程について、視覚的に共有する。</li> </ul>		
活用の状況と支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学習の内容を黒板の横のホワイトボードに提示したことで、これらをヒントにして考えながら取り組んでいた。</li> <li>・友達と対話を重ねながら、友達の考えを聞き、自分なりに応用しようとしていた。</li> </ul>			